第22回聖化大会教勢・財勢報告

教　勢

月　日	集 会 名	集会人数
10月14日（日）	プレイズ&トーク	232
10月15日（月）	レセプション	40
	講　演　Ⅰ	241
	講　演　Ⅱ	242
	神学生交歓会	96
	聖　会　Ⅰ	329
10月16日（火）	女性大会	302
	学びを深める時	148
	聖　会　Ⅱ	319

財　勢

集 会 名	席上献金	予約献金	合　計
プレイズ&トーク	122,505	——	122,505
講演Ⅰ、Ⅱ	184,260	——	184,260
聖 会 Ⅰ	308,064	767,000	1,075,064
女性大会	341,948	442,000	783,948
聖 会 Ⅱ	412,484	683,100	1,095,584
会　　計	1,369,261	1,892,100	3,261,361

聖会Ⅱ　『恥からの解放』

（ヨシュア記 5:1―5、8―12）　　S. シーモンズ博士

イスラエル人は40年間の荒野の生活を出て、カナン人を倒すために、あとはただ前進するだけであった。そのような時に、神様はその前に必要なことがあると語られた。それは①すべての男子が割礼を受けること。②過ぎ越しを祝うこと、であった。しかし、割礼や過ぎ越しの祝いに必要な日数を考えると、ヨシュアは「どうして、こんな時に?」と思ったであろう。その理由として、神様は「エジプトのそしり」（9節）があるためであると言われる。イスラエル人は400年の間、エジプトの奴隷として屈辱を受けていた。それが当時も他国からの物笑いの種となっていた。そしてイスラエル人もそれを受け入れてしまっていた。神様は、イスラエル人がこのような屈辱を持ったまま、前進することはできないと語られたのである。このことはホーリネスと深い関係がある。

私たちは、生活の中のあらゆる領域の中で「恥」を持っている。それが、私たちがホーリネスに向かって前進するのを妨げ、神様が私たちのために持っている目的が果たされない要因となる場合がある。「恥」=それは、罪であったり、失敗であったり、偽りであったり、自分自身ではどうすることもできない自らの過去であったりする。また自らが不倫の子であることや、親がアルコール依存症であったり、性的虐待を受けたりということだったりもする。また外見が整っていないことや、賢い頭が与えられていないことであったり、仕事上の失敗であったり、対人関係におけるつまずき、小さい頃から親からののしられてきたこと、また自らの短気や肉欲（ポルノなど）や破壊的な行動に出てしまうということに悩んでいる場合もある。サタンは「おまえはダメなやつだ、それでも本当にクリスチャンか?」などと私たちを訴える。その結果、私たちが本来持っている力、夢、人間関係をダメにしてしまうのである。それゆえ、私たちは約束の地を前にして立ち止まり、これらの「恥」を取り除かなければならない。神様に働いていただく必要がある。解決のためには時間のかかるプロセスが必要である。

神様は「ギルガル」（5:9）という名前をつけさせた。それは「はぎとる」「ころがす」という意味がある（レビ26:13参照）。神様は、どのようにして「エジプトのそしり」を取り除かれるのか?　2つある。

①割礼を受ける（2節）=神のご愛によって永遠の契約が結ばれている確信を植えつけること。
イスラエル人は他国人がどのように自分たちをののしろうと「わたしは決してあなたを離れず、あなたを捨てない。永遠にあなたを愛する」という神の愛と契約のシンボルである割礼を受け、その事実を再度、心に刻み付ける必要があった。

②過ぎ越しの祝いをする（10節）=恥の部分を贖っていただくこと。イスラエル人にとっては出エジプトの出来事を思うこと、今日の私たちにとっては、主の聖餐を通して主の十字架と復活を思い、宣言すること。主は、私たちの罪だけではなく、悲しみも、恥も担われた。キリストのうち傷によって、私たちは癒される（ヘブル12:2、イザヤ53:5）。
（生後8ヶ月で悲劇的に母親を亡くしたマティーという女性の証し）。

私たちは、自らの信仰生活の中に「ギルガル」の体験があるだろうか?　私たちのさまざまな「恥」の部分に、主の十字架の血を注ぎかけていただくことにより、それは取り除かれるのである。その時に、真にホーリネスの生活を生きることができる。（文責・長井主恩）

●第1回四国聖化交友会・聖化大会

■日時　6月29日（日）

■会場　日本イエス・キリスト教団 高松田村町教会

■講師　竿代照夫師（イムマヌエル綜合伝道団 中目黒教会）

●第54回 ジョン・ウェスレーに学ぶ会

■日時　5月20日（火）

■会場　大阪クリスチャンセンター

■講師　田代幸雄師（ウェスレー・ビブリカル・セミナリー）

●第15回東海聖会

■日時　6月28日（土）-29日（日）

■会場　活けるキリスト名古屋一麦教会

■講師　飯塚俊雄師（日本イエス・キリスト教団 東京若枝教会）

2007年10月第22回関東大会聖会メッセージ要約（於淀橋教会）

聖会Ⅰ　『主の前の歩みと完全』

（創世記 17:1―8、15―19）　　S. シーモンズ博士

ここで「全き者であれ」とはどういう意味であろうか。原語のヘブル語によれば、「完全に、十分に、真実に、あなた自身をわたしにささげて欲しい」という意味であり、それは「一つの心で、心を尽くしてわたしを愛して欲しい」という意味である。これはアブラハムだけに対するみこころだけではなく、すべてのクリスチャンに求められていることである。しかし、それはどのようにすることができるのだろうか?　今晩、アブラハムの生涯を通して、そのことをともに考えたい。アブラハムの生涯に起こった出来事を通して、神様は彼を心を尽くして神を愛する者にしようと導かれた。彼の生涯の中の出来事を通して、神様は大切な二つのことを教えようとしておられる。

1、セカンドベストを選ばないように。

神様は、以前からアブラハムが多くの国民の父となることを約束しておられたが、しばらく経ってもその成就を見ることが出来なかったアブラハムとサラは、女奴隷の子イシュマエルを通して、子を設けるという失敗をしてしまった。神様の方法でというより、自分たちがよいと思う人間的な方法で行動してしまったのである。その後、神様は再びアブラハムに17章で約束を思い起こさせた。その時の彼の反応は「どうかイシュマエルが、あなたの御前で生きながらえますように」（18節）と応えている。言わばセカンドベスト（第二の最善）で満足してしまっていたのである。あなたがたの中にも、神様がイサクを与えようとしておられるのに、イシュマエルで満足してしまっている方がいないだろうか?　神様に従おうとはしていても、人間的な、自分のやり方でしようとしていないだろうか?　神様は、アブラハムが全き心で神を愛する者となるため、イシュマエルで満足しない方法を選ばれた。アブラハムとサラのした失敗を、神様は贖ってくださるが、のちにイシュマエルは追い出さなければならなかった。私たちも、セカンドベストを手放すように導かれることがある。

2、神様よりもベストを選ばないように。

神様が与えてくださった最高のもの（ベスト）イサクの成長は、アブラハムとサラにとって大きな喜びであった。しかし、私たちにとって神様が与えてくださった最高のものが、神様ご自身よりも私たちの心を占めてしまうことがある。私たちの日常生活に見るあらゆる祝福は神様からのものである。しかし、それ自体が信仰の妨げになる場合がある。アブラハムの場合はイサクにその危険があった。神様は「わたしはねたむ神である」と語られる。神様は「あなたのイサクをささげなさい」と語られることがある。アブラハムは、神様に従い神様を最高に愛した。またイサクを正しい方法で愛せるようになった。それで神様はイサクを彼の手に返された。30年ほど前、私自身も牧師としての働き自体を神様ご自身以上に愛していたことを示され、砕かれた。その後、自らの奉仕にしがみつくような者ではなく、神様に信頼する者とされた。

アブラハムはその先、どうなるか分からなかったが、神様に従ってイサクをささげた。私たちもこの先どうなるか分からなくても、心配はいらない。神様が求めておられることは、従って行くという心である。それは私たち自身の力ですることではなく、全能（17:1）の神がしてくださることである。神様の語りかけに「はい、従います」と応える者に、神様はその力を働かせてくださる（Ⅰテサ5:24）。（文責・長井主恩）

●第12回栃木聖化大会

■日時　5月11日（日）

■会場　イムマヌエル宇都宮教会

■講師　藤本満師（イムマヌエル綜合伝道団高津教会）

●第1回北海道（第20回札幌）聖化大会

■日時　5月20日（火）-21日（水）

■会場　北海道クリスチャンセンター

■講師　竿代忠一師（イムマヌエル綜合伝道団磐田教会）
久保木勁師（日本ナザレン教団札幌教会）

◆今秋の聖化大会講師の速報

今秋、関東、東海、大阪、備前、九州の各聖化大会における主講師は、ビクター・ハミルトン博士（アズベリー・セミナリー教授）です。組織神学を専門としておられます。詳細は次号でお知らせします。